

文・写真 松澤美穂

地方 紀民 行鉄

世界遺産への登録が期待される

富岡製糸場。

穏やかな日常に包まれた城下町。
歴史的な空間を企画キップで
満喫する。

上信電鉄株式会社



彦

根城に国立西洋美術館・本館、佐渡鉦山の遺産群に百舌鳥・古市古墳群……。

世界遺産への登録を目指すこれら多くの国内暫定リストから、一步飛び出し、2012年、世界遺産への「推薦」が決定した富岡製糸場と絹産業遺産。その富岡製糸場を沿線に持つ上信電鉄では、次なる目標、世界遺産「登録」を応援して、高崎駅ー上州富岡駅間の往復運賃と富岡製糸場の入場料をセットにした企画キップを発売中とか。

企画キップを利用して世界遺産候補を見学。

企画キップは窓口販売

上信電鉄の高崎駅はJRの高崎駅に隣接。JRからの乗り換えには十分な時間を取っておいたのに、駅ビルのお土産物屋に目を奪われて、気がつけば時間はギリギリ。慌てて上信電鉄の乗り場へ向かう。

ホームには既に電車が入線し、乗客が続々と乗り込んでいる最中。急がなくてはと思っけれど、お目当ての企画キップ、「富岡製糸場見学往復割引乗車券」は券売機ではなく窓口販売。焦るこちらに気づいたのか、すばやくキップが差し出され、なんとか「駆け込み乗車」にならずに乗車。

一息ついて見渡した車内は、9割近い乗車率。空席を見つけて腰掛けると同時に、ガタンと大きく揺れて、電車が動き出す。

各駅停車という割にスピードが速いのだろうか、車内にはガタンゴトンと、どこか懐かしい音が広がり、車窓には住宅と田畑のモザ

イク模様が飛びよつに流れる。電車が進み、モザイク模様の田畑の部分が優勢になってきたころ、上州富岡駅に到着。駅舎に置かれた周辺地図をもらって、富岡製糸場へと向かう。

さすがは、世界遺産候補

地図を頼りに商店街を通り抜け、歩くこと約10分で富岡製糸場に到着。

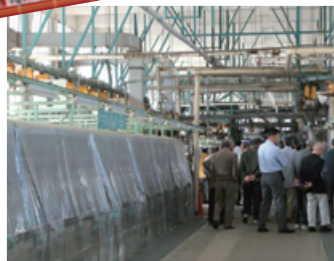
「平日だし、午前中だし、きつと人出は少ないはず」と思っていたら、正面入り口にはツアーの団体が集まり、入場券売り場には行列ができる賑わい。社会科見学らしい小学生の集団に、スーツを着た壮年の男性グループの姿も見える。

団体客にはそれぞれボランティアの解説員が付いて、建築物の解説などを聞きながら見学している。個人の見学者に対しても、1日に数回、解説案内が行われているとのことだが、残念ながら時間が合わない。パンフレット片手に気ままに場内を巡りつつ、所々で団体客の後ろについて、耳を澄ませて解説を聞かせてもらう。

れんが造りの繭倉庫や繰糸場、外国人指導者ブリユナが住んでいたブリユナ館など、一通り見学して戻った正面入り口には、小さな旗を持った添乗員に伴われた人々の出入りが続き、近くのお土産物屋さんの前にも人が集まっている。

平日でこの賑わいならば、休日はいったいどのくらいの人が訪れるのだろう。さすがは世界遺産候補。

普通のキップより大きな企画キップは窓口販売。



れんが造りの繭倉庫。グループごとに解説員が由来などを解説してくれる。(撮影協力：富岡市・富岡製糸場)

上信電鉄

【じょうしんでんてつ】

高崎駅から下仁田駅まで、総延長33.7kmを約60分で結ぶ。創立は明治28年と古く、木造駅舎も数多く残る。



上州福島駅でレンタサイクルできるのは十台弱。



上州福島駅の駅舎は木造。使い込んだ時刻表や温度計が懐かしい雰囲気。

途中下車はどの駅で？

見学を終えて駅へ戻ると、時刻はお昼を回ったところ。まっすぐ帰るにはまだ早い。幸い「富岡製糸場見学往復割引乗車券」は復路で1回途中下車ができるようになってい。どこで降りて、何をしようか。

上信電鉄では、沿線にある妙義山や神成山へのハイキングなどが季節ごとに企画され、HPには沿線の散策コースも紹介されている。今回、途中下車できるのは、復路に当たる上州富岡駅から高崎駅までの11駅。この区間でのお勧めは、「上州福島駅で降りて、城下町小幡を散策」か「吉井駅で降りて、日本三大古碑の多胡碑見学」とのこと。

「三大古碑」も魅力的だけれど、「城下町」の言葉の風情は捨て難く、上州福島駅で途中下車して、小幡城下町へと向かう。

自転車で坂の上の城下町へ

小幡城下町は上州福島駅から約2km程度の場所にある。歩いて行けない距離ではないけれど、上州福島駅では無料でレンタサイクルもできる。「運動不足の体には、徒歩より自転車の方が楽なはず」と、自転車を選ぶ。

ところが、駅員さんの「気をつけて行ってらっしゃい」の声に送られ、張り切って自転車をこぎ始めて十数分。緩やかではあるけれど、延々と続く上り坂に、あっという間に足はガクガク。

「歩いたほうが、楽だったかなあ」。心の中

でぼやきつつ、休み休み自転車を進めて行く。と、フツと辺りの景色が変わる。

整備された広い歩道の右手には桜並木と透き通った小川、左手には大きな門構えの家並み。自転車を止めてパンフレットを確かめると、ここはもう小幡城下町。小川は日本名水100選にも選ばれた雄川堰、家並みは明治中期に建築された養蚕農家だという。

横道に入れば、白壁の武家屋敷と普通の住宅や学校が入り交じる。古くて立派な塀と門の内側に、現代的な住宅が建っていたりするのも面白い。整備され、守られてはいてもごく普通に人が暮らしている。住む人の気配が漂う城下町を自転車で走り抜ける。

駅員さんに見抜かれた？

行きで苦労した上り坂は、帰りは当然下り坂。自転車は気持ちよく風を切る。行きの苦労が嘘のように、すんなり駅へ戻り着くと、たまたま駅舎の前にいた駅員さんに、「案外早く帰ってきたね」と出迎えられる。

時計を確かめると、駅を出てから2時間弱が経過している。パンフレットが薦める散策コースのうち、最短コースの所要時間も約2時間。ただし、ここには駅から小幡城下町までの往復を含まないから、2時間弱で戻ってくるのは、確かに早い。「きつかったでしょう、行きの坂道」、駅員さんは笑って続ける。行きの坂道に疲れたあまり、最短の散策コースをさらにショートカットしたことを、駅員さんに見抜かれた？



雄川堰は春には桜の名所になる



富岡製糸場世界遺産登録応援号を含め、9種類が運行中。